

◆ 今ここで頑張っています ◆

「職住近接」のススメ

早稲田大学 環境保全センター 佐竹 弓月 (旧姓 多田) 新制45回卒



私は清水研を10数年前に修了した後、現在はご縁あって環境保全センターで勤務しており、主に有機系の分析業務に携わっております。今回このような文章のご依頼を受けましたが、環境保全センターについてはご存知の方も多いかと思いますので、別の視点で書かせていただきたいと思います。

私はこちらに来る前は11年間奈良に住んでおりました。主人(佐竹彰治、清水研出身)が奈良先端科学技術大学院大学へ赴任したことに伴うものでしたが、東京育ちの我々にとっては、関西はまったく未知の地でした。

奈良先端科学技術大学院大学は学部を持たない大学院のみの国立大学で、奈良県生駒市の北部にあり、田んぼの中を走る国道を車で走っていると、突如不夜城のような(真夜中でも煌々と電気がついている)大学の建物群が広がります。大学敷地内に教員用宿舎があるので、必然的に私も奈良先端大で主に技術員として11年間勤務しました。通勤時間徒歩5分のまさに「職住近接」です。

奈良に11年も住むことになろうとは、当時思いもよりませんでした。その間に2人の子どもを生み、育てることとなりました。遠距離で実家の援助が得られない中で、共働きの子育ては、その時々でいろいろな苦労がありましたが、職住近接で乗り切った感があります。子どもが病気でお休みした時は、夜や休日に大学へ行ってたまっている仕事をこなすのも、近ければ苦ではありません。いつも昼食は家に戻り、その間に夕飯の下ごしらえをすることもできました。

東京理科大学へ主人の赴任が決まり、11年ぶりに東京に戻ってきましたが、こちらでの職探しはかなり困難でした。仕事がなければ保育園に入れない、保育園に入れないと仕事ができない、まさに悪循環です。ここであらためて仕事の継続性の重要さを感じました。

応化の同期の女子で「ママ会」と称してここ

5年くらい毎年集まっております。ママになっても仕事を続けている人も多く、いつも話は尽きないのですが、育児休暇をとったのがその会社で初めての世代だったり、とても子育てしているとは思えない勤務体制だったり、苦労話も様々です。会社の規模や支援体制によって事情はいろいろですが、皆がそれぞれ輝いています。子育てには本当に気力、体力が必要です。ママが輝いて幸せでいてこそ、子どもが幸せというのが私の実感です。

そこでまた「職住近接」のおススメです。世のお父さん方は家族と一緒に夕食を取れる方がほうが稀かと思いますが、主人は夕食時に一度家に帰り、また大学に戻るというスタイルを、こちらでも続けています。研究室を主宰する主人としては、研究時間の確保という意味でもメリットは大きいことでしょう。なにしろ徒歩通勤ですので終電も気にせず、好きなだけ研究に没頭できるので（そして私は子どもと一緒に寝てしまい、彼がいつ帰ってきたのか気づかないことしばしば…笑）。下の子ども(3歳)は「いってらっしゃ〜い、また明日ね〜」と見送っています…

3月の震災で交通機関の大混乱を経験して、職場からすぐに子どもを迎えにいけるという安心感を実感したところですが、震災当日は徒歩15分で帰れるはずの主人が竜田先生の最終講義で大隈講堂におり、早稲田にいるはずの私が子どもの発熱で家にいたという不思議なめぐりあわせもありました。

「職住近接」のススメーあくまでも我が家に限ることかもしれませんが、皆様に何らかのご参考になれば幸いです。